

課題先進国としてなすべきこと

種田 昌克

今回の甘利明経済再生担当大臣の講演で、「課題先進国」というキーワードが心に残った。この「課題先進国」とは我が国のことに他ならない。実際、我が国は「少子高齢化」「財政赤字」「インフラの老朽化」「教育問題」「ヒートアイランド現象」「農業問題」「環境問題」など多くの課題を抱えている。

この現状に対し、多くの国民は課題の多さに嘆くのではないだろうか。しかし、嘆くのではなく、日本国民一人ひとりの意志と能力によって課題を解決していかなければならないと考える。日本の課題は遠からず世界の課題となるのであり、課題の解決に成功すればソリューションとなり、世界史のなかでいよいよ主役を演じることができるからである。

例えば、隣国中国は日本の歩んできたのと同じ道を歩んでいるのではないかと思うところがある。環境面では PM2.5 は人体に悪影響を及ぼすため深刻な問題である。しかし、日本も高度経済成長期に多くの環境汚染などの問題を抱え、経験し改善のための取り組みをしてきた。また、隣国は少子高齢化社会の問題も抱えている。一人っ子政策により夫婦が1人の子供しか生めない結果、これから一人っ子同士の結婚がほとんどとなり、若い夫婦が少なくとも4人の老人の面倒をみなければならなくなった結果である。それなら、我が国の介護保険制度や介護事業などのノウハウをパッケージ化して輸出しても良い。

日本がこれまで歩んできたのと同じように、これから多くの国が様々な課題に遭遇するはずである。我が国は「環境技術の高さ」「日本人の平均的な学力の高さ」など優位性をしっかり生かし課題を克服する（解決するための処方箋づくり）ことで、日本はリーダーシップをとることができると思われる。それは先進国の責務でもあると考える。